

JTU 認定記録会開催マニュアル

[1] 実施目的と基準

- 1) 認定記録会は、トライアスロン競技の一貫指導システムと全国強化拠点化を促進するために実施する。
- 2) タレント発掘と強化指定選手の認定、大会の選手選考などJTU強化事業と連携し強化普及を図る。
- 3) JTU 承認を受けた開催日の同日にスイムとラン測定を実施する。JTU競技規則に基づき、記録会規定を設け、関連競技団体の規定を参照する。主催は加盟団体とし、記録を認定する。JTU（後援）は記録を承認する。

[2] 年齢区分と競技距離

<12歳以上>

- 1) 16歳以上：スイム400m、ラン5000m
- 2) 16～19歳：スイム400m、ラン3000m
注) 16歳以上の選手は、ラン3,000mか5,000m（3,000m通過タイム計測）を選択可。
- 3) 12～15歳：スイム400m、ラン1500m
* 上記は、当該年12月31日現在の年齢に基づく。

<小学生>

- 1) 小学5～6年生：スイム200m、ラン1000m
- 2) 小学3～4年生：スイム100m、ラン800m
- 3) 小学1～2年生：スイム50m、ラン400m
* 上記は、認定記録会当日の学年に基づく。当該年4月より中学生になる小学6年生は、12～15歳区分に参加可。

[3] 記録発表と級の認定

- 1) 認定基準は、「認定記録会・標準記録」（別紙）による。公式記録は、主催団体が級の認定を行い発表する。
- 2) 16歳以上（スイム400m、ラン5000m）の認定は「スイム×2倍+ランの合計タイム」で認定し、それ以外の区分は両種目の低いランク級に基づき認定する。例）スイム2級、ラン3級で3級。スイム2級、ラン5級で5級。
- 3) <12歳以上>の記録は、100分の1まで計測する。例）12～15歳男子スイム：4分24秒00は1級、4分24秒01は2級。
- 4) <小学生>の記録は、100分の1まで計測し、100分の1単位を切り捨てて認定する。
例）小学1,2年生スイム：36秒09は36秒00とし1級、36秒11は36秒10とし2級。
- 5) 12歳以上の各区分で基準（※）を達成した選手を「JTU強化指定選手」として認定する。（※）JTU エリート強化C指定（16歳以上）、JTU ジュニア強化BC指定（16～19歳）、JTU ジュニア強化D指定（12～15歳）

[4] 運営マニュアル

- 1) 告知と広報：主催団体ホームページ、会報、「ウェブJTUマガジン」、一般メディアを通じ、参加選手を公募する。
- 2) 参加費の基本：一般3,000/5,000円、大学・中高生2,000/3,000円、小中生1,500/2,000円（一種目のみ参加の場合半額基本）
- 3) 測定時間の基本設定：午前中にスイム測定、2時間を空け、午後にラン測定を実施する。
例）08:00集合（受付）、08:30説明会とウォームアップ、09:00スイム測定、（昼食）、13:00ラン測定、15:00記録発表と確定、記録会終了。

- 4) 運営費の管理：施設使用料（プール、陸上競技場）、スタッフ諸経費・備品（交通費、弁当、他）、傷害保険（必須）などは、参加費を収入の基本とし、主催団体の独立採算とする。
- 5) 運営スタッフ：J T Uと加盟団体の強化本部委員、公認審判員、公認指導者及びボランティアスタッフで構成する。次の配置を基本とする。例）スターター 1 名、測定員 2 ～ 4 名、周回観察員 2 ～ 4 名、記録員 1 名、審判長、技術代表、統括責任者）
- 6) 運営アイテム
 - 6 - 1) スイム用：ストップウォッチ 6 個、記録用紙、筆記用具、鐘(モクヘリン)、ホイッスル、他
 - 6 - 2) ラン用：ストップウォッチ(記録機能付) 2 個、記録用紙、周回掲示板、机、イス、雷管/笛、他
 - 6 - 3) 選手関連：レースナンバー（簡易式可。テーピングテープ等）、マジックインク（ボディナンバー：背中、太股、他）
- 7) 参加選手の競技用具（持参）
 - 7 - 1) スイムウェア（ウェットスーツ着用禁止、FINA ルールに準ずる）
 - 7 - 2) スイムキャップ
 - 7 - 3) ランシューズ（長距離用スパイクの使用許可）

[5] スイム測定 <競泳競技の規則に準拠>

- 1) 施設：2.5m プールで飛び込み台、コースロープを設置する。水温は、26 ～ 30 度とする。
- 2) 設定：常時ウォームアップとクールダウンができる専用コースを設ける。計測前に全コース（飛び込み専用 1 レーン設置）使用のウォームアップ時間を設ける。
- 3) 飛び込みスタート
 - 3 - 1) 笛の合図『ピッ、ピッ、ピッ、ピーッ』でスタート台に上がる。
 - 3 - 2) 『ヨーイ』の掛け声で静止状態とする。
 - 3 - 3) 短い笛の合図『ピッ』でスタートする。特例）入水してのスタートを認める。最初の笛の合図で入水し、『ヨーイ』後は、飛び込みスタートと同様とする。
- 4) 周回の確認：選手の自主的確認とする。この他に周回観察員が、最終周回へのターン前後 5 m 内で、鐘を鳴らすなどにより最終ラップの合図を送る。
- 5) 記録の測定：スタート合図に合わせ、ストップウォッチを押す。周回観察員の指示に従い、フィニッシュ時に真上からタッチを目視する。100 分の 1 秒まで計測する。

[6] ラン測定 <陸上競技の規則に準拠>

- 1) 施設：第 3 種公認以上の 400m タータントラックの使用を基本とする。
- 2) 設定：スタート前に 30 分以上のウォームアップ時間を設ける。
- 3) スタンディングスタート：
 - 3 - 1) ラインに足がついていないことを確認。『位置について』の掛け声で、静止状態とする。
 - 3 - 2) 短い笛の合図『ピッ』または雷管をスタート合図とする。
- 4) 周回の確認：選手が自主的に確認する。周回観察員は、先頭の選手に合わせ周回数を提示、さらに最終周回に入る前後 10 m で、最終ラップの合図（鐘、他）を送る。
- 5) 記録の測定：スタート合図に合わせ、ストップウォッチ（メモリー付）を押す。周回観察員の指示に従い、選手の胸が真横からフィニッシュラインを通過する瞬間に、100 分の 1 秒まで計測する。選手のフィニッシュ順記録に加えレースナンバーの着順を記録する。その後、順位とタイムを照合し正式タイムとする。以上にはバックアップ体制をつくる。

[7] 計測後の主催者業務

- 1) 審判長（技術代表）が記録と級を確認し発表する。参加選手の確認を受ける。異議申し立ては記録発表の15分以内とする。
- 2) 総合記録（級認定付き）一覧を参加選手に配布する。また、公認記録証（計測時間と級）を発行することができる。
- 3) 主催者は、開催当日（一両日以内）に次を明記し指定先にEメールで報告する。
 - 3-1) 報告内容：開催日時・場所（コース認定等）、記録と級一覧（入力フォーマット）水温・気象条件、抗議の有無、特筆事項など。
 - 3-2) 送信先：JTU事務局 jtuoffice01@jtu.or.jp
 山根 JTU オリンピック対策チーム総務 yanmar@plum.ocn.ne.jp
 村上 JTU オリンピック対策チーム男子アシスタントコーチ kooji@tf7.so-net.ne.jp
 - 3-3) 公式記録は、JTU 強化チームの確認を受けた後にウェブ JTU マガジン他で発表する。 =以上=

[8] パラトライアスリートの参加について

1) 参加条件と競技距離

- 1-1) 当該年12月31日現在、15歳以上
- 1-2) 以下の表に記載された障害の一例に該当する選手

パラトライアスロンクラス分け

基本区分	エイジ	エリート	障がいの一例（対象）	摘要
シットティング （座位）	TRI1	PTWC1 重度	共通の健康状態は脊椎損傷、切断、脳性まひなど。	日常歩行に車椅子を利用する選手。バイクはリカンベントタイプのハンドサイクルを、ランは競技用車椅子の使用。
		PTWC2 軽度		
スタンディング （立位）	TRI2 重度の 下肢の 障がい	PTS2	四肢欠損、筋緊張亢進、運動失調他。共通の健康状態は切断、重度の脳性まひなど。	かなり重度の障がいのある選手。バイク、ランでは、義肢やその他（松葉杖）着用可。
	TRI3 脳性麻痺、 四肢麻痺等	PTS3	四肢欠損、筋緊張亢進、運動失調他。共通の健康状態は部分的な腕神経叢まひ、中程度の複合肢障がい、脳性まひなど。	重度の障がいのある選手。バイク、ランでは、義肢やその他着用可。
	TRI4 上肢の 障がい	PTS4	四肢欠損、筋緊張亢進、運動失調他。共通の健康状態は下腿切断、前腕切断、軽度の脳性まひなど。	中度の障がいのある選手。バイク、ランでは、義肢やその他着用可。
	TRI5 軽度の 下肢の 障がい	PTS5	四肢欠損、筋緊張亢進、運動失調他。共通の健康状態は片方が運動機能正常。軽度の脳性まひなど。	軽度の障がいのある選手。バイク、ランでは、義肢やその他着用可。
ブラインド （視覚障害）	TRI6	PTVI1	完全（全盲）な視覚障がい	完全、部分的な視覚のある選手。同性のガイド1名がレース全体を通じて伴走必須。タンデムバイクを使用。
		PTVI2	部分的（重度）な視覚障がい	
		PTVI3	部分的（軽度）な視覚障がい	
クラス数	6	9		

※<http://www.jtu.or.jp/kyouka/2019/pdf/19para-class.pdf> を元に改変

- 1-3) スイム：200m（5分以内に完泳）、ラン1500m（10分以内に完走／PTWCの日常用車いす使用選手は1000m）
- 1-4) ITU 競技規則で認められる補装具の使用は許可される。

* ITU 競技規則(簡易和訳)

- 1 - 5) 必要な競技用具・補装具、タッパー、ガイド等は、参加者自身が手配する。
- 2) 記録発表
 - 2 - 1) 年齢区分を<パラアスリート>として主催団体が記録・発表。
 - 2 - 2) JTU パラリンピック対策プロジェクトチームにて記録に対して、強化指定の認定を行う場合がある。
- 3) 運営マニュアル
 - 3 - 1) 申込受付時に、参加者に障がいの状況（障がい名、障がい等級、日常使用の補装具、記録会時使用の補装具、特に配慮を必要とすること）を申告していただく。
 - * クラスが不明な場合は、基本区分（座位、立位、視覚障がい）を明記する。
 - 3 - 2) 当日受付時にて、付き添い者、及びガイド・タッパーの確認
 - 3 - 3) 安全が確保され、記録会運営に支障がなければ、運営スタッフがガイド・タッパーを担うことができる。
 - 3 - 4) 記録フォームの記入については、備考欄にクラスまたは障がいの基本区分を記載する。
(※前述[8]1 - 2) 参照)
- 4) スイム測定
 - 4 - 1) 200m 泳でのウェットスーツの着用は認めない（ただし、ウェットスーツの着用が可能な会場に限り、PTWC クラスに該当する選手は下肢のみを覆うウェットスーツの着用を認める）
 - 4 - 2) PTWC に該当する選手の 200m 泳では、ITU ルール上認められるニーブレイス・留め具の使用を認める。
 - 4 - 3) 200m 泳での PTVI に該当する選手のガイドの併泳は認めない。
 - 4 - 4) スタートは、台上、台の横からの飛び込み、または水中スタートを選択できる。
 - 4 - 5) 水中スタートは、少なくとも片手でスターティンググリップを含むプールの壁をつかんだ状態からスタートしなければならない。身体的理由により壁をつかめない場合は、水面上の身体の一部がプールの壁についていればよい。
- 5) ラン測定
 - 5 - 1) 義足装着者の 1500m 走では、競技用義足（板バネ）及びクラッチ（杖）の利用が可能な会場に限り、その使用を認める。
 - 5 - 2) PTWC クラスに該当する選手の 1500m 走はレーサー（競技用車いす）とし、日常用車いすを使用する場合の距離は 1000m とする。ただし、どちらもヘルメットを着用しなければならない。また、測定時はグローブの使用を推奨する。
 - 5 - 3) 車いすは身体の一部であり、その接地面がスタートラインや左側のラインに触れてはならない。
 - 5 - 4) PTVI クラスに出場する選手は次のような範囲で、必ず伴走者が必要である。ただし、異性でも認める。
 - (1) いかなる場合も、伴走者は競技者を引っ張ったり、押して前進させるといった推進を助けるようなことはしてはならない。
 - (2) ガイドロープ（伸縮しない紐など）を用い、選手と 50 cm以内に保つ。必要に応じ、声をかけるなどによって走路の指示をする。

6) 特記事項

パラ部門の開催にあたっては、次の「実施障がい者の受け入れ確認」を推奨する。

◆「実施施設の障がい者受け入れ確認」:

主に下記項目について、選手単独、もしくは支援者がいれば可能かを確認し、総合的に実施判断する。

<プール>

- 車いす利用者、その他の補装具の利用者、視覚障がい者の利用の可否
- ウェットスーツ、ニーブレイス、留め具の使用の可否
- 上記該当者の更衣室の利用の可否（付添者が必要な場合、異性の付添者の可否）
- 車いす利用者の導線（駐車場～入口～更衣室～プール）での安全確保

<陸上競技場>

- 義足装着者のうち、競技用義足（板バネ）の利用の可否
- スクラッチ(杖)での走行の可否
- 車いす利用者・その他の補装具の利用者・視覚障がい者の利用の可否
- 車いす利用者の導線（駐車場～入口～更衣室～陸上トラック）の安全確保

7) 計測後の主催者業務

パラアスリートが参加した場合は、以下2つの送信先を追加する。

- ・陶山 JTU パラリンピック対策メンバー suyama@mx4.mesh.ne.jp
- ・JTU 事務局（パラ担当） para@jtu.or.jp

<記録フォーム記入について>

- 1) 「基礎データ」シートに必要事項を入力。
- 2) 「記録入力」シートに氏名、性別、タイムなどを入力。
 - 2-1) グレーの部分には入力をしない。
 - 2-2) 記入例の通りの書式で入力。
 - 2-3) タイムは数値のみ分、秒、1/100 秒を別々に入力。
 - 2-4) 19 歳以下で 5000m を走った選手の 3000m 通過タイムは、備考欄に記入。
 - 2-5) 参加人数が多い場合は、行を挿入後、式をコピー。
 - 2-6) 12-15 歳、16-19 歳の入力のシートで 11 級がでてしまいますが、提出のシートでは[N]と表記される。
- 3) 「提出」シートにデータがコピーされている事を確認。3-1) 余った行は削除。3-2) そのまま印刷（pdf に）して提出（サイトにアップ）。

何か不具合があれば 中島靖弘 JTU マルチスポーツ対策チームリーダー（yasu-n@nifty.com）へ連絡。

<2019年10月23日改訂>

<2018年2月18日改訂>

<2017年11月14日改訂>

<2014年1月17日改訂>